

## 地域医療に貢献できる薬局薬剤師の姿と現状の課題

原田 千尋<sup>1)</sup>、萩原 大士<sup>2)</sup>、前田 守<sup>3)</sup>、長谷川 佳孝<sup>3)</sup>、月岡 良太<sup>3)</sup>、  
森澤 あずさ<sup>3)</sup>、大石 美也<sup>3)</sup>

- 1) 株式会社インファーマシーズ メディオ薬局 岡部内谷店
- 2) 株式会社インファーマシーズ
- 3) 株式会社インホールディングス

【目的】保険薬局が地域包括ケアシステムの一翼を担うことが求められるなか、2018年4月に保険薬局の地域支援体制を評価する8項目が示された。これらを指標とし、薬局薬剤師が地域医療に貢献する上での課題を考察した。

【方法】2019年4月に当社が静岡県で運営する保険薬局35店舗の薬剤師85名を対象に、地域支援体制の評価8項目に係る調剤技術料および薬学管理料(①夜間・休日等加算、②重複投薬・相互作用等防止加算、③服用薬剤調整支援料、④在宅患者訪問薬剤管理指導料(単一建物診療患者1人)および居宅療養管理指導(単一建物診療患者1人)、⑤服薬情報等提供料、⑥麻薬指導管理加算、⑦かかりつけ薬剤師指導料およびかかりつけ薬剤師包括管理料、⑧外来服薬支援料)の算定経験を調査した。その結果から「経験あり群」と「経験なし群」に分け、経験あり群には「算定時に感じた課題(以下、算定課題)」も調査とした。なお、本研究はアイングループ医療研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号:AHD-0028)。

【結果】経験あり群は、項目②(96.5%)、項目⑤(65.9%)、項目①(64.7%)の順に多かった。最も多かった「経験あり群の算定課題」は、項目①が「近隣医療機関の開局時間(43.5%)」、項目②、③および⑤が「薬剤師の聞き取り不足(41.5%、52.9%、37.5%)」、項目④が「他の職種との連携不足(51.3%)」、項目⑥が「機会が少ない(73.0%)」、項目⑦および⑧が「地域住民の周知不十分(34.9%、40.5%)」であった。

【考察】経験あり群の算定課題から、夜間対応や麻薬処方箋応需を環境要因と捉える傾向もあり、受け身ではなく、薬局薬剤師から患者、他の職種および地域住民への薬局機能の開示や更なる働きかけを行う重要性が示唆された。今後、薬局薬剤師が地域医療に貢献するためには、今まで以上に患者や他の職種に能動的に関わることで信頼関係を構築し、薬局薬剤師の役割を積極的に発信して地域住民の認知を進める必要がある。

(第13回日本薬局学会(2019年10月,神戸)にて発表)